

抗コリン薬、抗コリン作用薬について

抗コリン薬や抗コリン作用を有する薬剤には、共通して発現する副作用が多数あるため併用する際には注意が必要です。そこで、多数ある抗コリン薬、抗コリン作用薬のうち当院採用薬でまとめてみました。

抗コリン薬について

副交感神経終末から分泌される伝達物質をアセチルコリンといい、ムスカリン受容体に結合した後、血漿のコリンエステラーゼにより分解されます。ムスカリン受容体には3種類のサブタイプがあり、M1受容体（胃や脳）、M2受容体（心臓）、M3受容体（平滑筋や腺）に存在しています。抗コリン薬はムスカリン受容体を遮断して作用を示します。

禁忌疾患、副作用について

抗コリン薬や抗コリン作用薬が禁忌となる疾患には、閉塞隅角緑内障、下部尿路閉塞（前立腺肥大など）、重症筋無力症などがあります。（閉塞隅角緑内障の禁忌でない薬剤には **BZP** 系薬ではエスタゾラム（ユーロジン）、排尿障害治療薬ではフラボキサート（ブラダロン）があります。）

抗コリン作用を有する薬剤に共通する副作用として、口渇、便秘、尿閉、せん妄、排尿障害（尿閉）、視力障害（眼圧上昇、散瞳、緑内障等）、麻痺性イレウス（腸閉塞）、心悸亢進（頻脈）等があります。

当院における抗コリン薬

鎮痙・抗消化性潰瘍薬
ベラドンナアルカロイド： アトロピン（硫酸アトロピン）
三級アミン： ピペリドレート（ダクチル）
四級アミン： ブチルスコポラミン（ブスコパン）
吸入気管支拡張薬
チオトロピウム（スピリーバ）
排尿障害治療薬
フラボキサート（ブラダロン）、プロピペリン（バップフォー）、 オキシブチニン（ポラキス）、ソリフェナシン（ベシケア）、イミダフェナシン（ウリトス）
抗パーキンソン薬
トリフェキシフェナジル（アーテン）

当院における抗コリン作用薬

非脱分極性筋弛緩薬
ロクロニウム（エスラックス）→ニコチン受容体のみ
麻薬
モルヒネ（モルヒネ塩酸塩、アンペック、MSコンチン、オプソ）、 オキシコドン（オキシコンチン）
抗結核薬
イソニアジド（イスコチン）→抗コリン薬との併用で相加的に抗コリン作用を示す
抗不整脈
ジソピラミド（リスモダン）、シベンゾリン（シベノール）、プロパフェノン（プロノン）
抗ヒスタミン薬
d-クロルフェニラミン（ポララミン、セレスタミン配合錠）、ジフェンヒドラミン（ベナ） ジフェンドール（セファドール）、ヒドロキシジン（アタラックス） フェノチアジン系（ピレチア）
中枢性鎮咳薬
コデインリン酸塩
総合感冒薬
PL 顆粒
催眠・鎮静薬
BZP 系薬 ：フルニトラゼパム（サイレース）、トリアゾラム（ハルシオン）、ロルメタゼパム（エバミール）、エスタゾラム（ユーロジン）、クアゼパム（ドラー）、 非 BZP 系薬 ：ゾルピデム（マイスリー）、ゾピクロン（アモバン）、エスゾピクロン（ルネスタ）
抗てんかん薬
クロナゼパム（リボトリール、ランドセン）、カルバマゼピン（テグレートール）
抗パーキンソン薬
レボトパ含有製剤（ネオドパストン、マドパー）、アマンタジン（シンメトレル：非常に弱い）
向精神病薬
ブチロフェノン系薬：ハロペリドール（セレネース）、 フェノチアジン系薬：クロルプロマジン（コントミン）
抗うつ薬
三環系抗うつ薬：イミプラミン（トフラニール）、アミトリプチリン（トリプタノール） 四環系抗うつ薬：マプロチリン（ルジオミール） SSRI ：パロキセチン（パキシル）、フルボキサミン（ルボックス：非常に弱い） その他：トラゾドン（レスリン）
抗不安薬
BZP 系薬 ：ジアゼパム（セレナミン・ホリゾン）、エチゾラム（エチゾラム）、 アルプラゾラム（コンスタン）、ロラゼパム（ワイパックス）、クロチアゼパム（リーゼ）